

---

# 清恵会病院 卒後臨床研修 プログラム

---

2027

Seikeikai Hospital Postgraduate  
Clinical Training Program



<https://seikeikai.or.jp/seikeikai/>



〒590-0064  
大阪府堺市堺区南安井町1丁目1番1号  
TEL 072-223-8199(代) FAX 072-221-3691

# 1 当院の概要

運 営	社会医療法人 清恵会		
病 院 長	坂中秀樹(出身大学：大阪市立大学)		
所 在 地	〒590-0064 大阪府堺市堺区南安井町1-1-1 TEL：072-223-8199 FAX：072-221-3691 交通手段：南海高野線・堺東駅から徒歩15分	URL https://seikeikai.or.jp/	
病 床 数	336床(HCU 7床、SCU 5床)		
診 療 科 目	内科(循環器内科、糖尿病代謝内科、消化器内科、呼吸器内科、腎臓・高血圧内科、脳神経内科、内分泌内科、膠原病内科) 外科(一般消化器外科、血管外科、心臓血管外科、乳腺・内分泌外科) 小児科/産婦人科/脳神経外科/整形外科/眼科/形成外科/救急科/放射線科/麻酔科/ 歯科口腔外科/泌尿器科/耳鼻いんこう科/皮膚科/メンタルヘルス科/リハビリテーション科/ 救急医療センター		

## ■ 病院の特徴

当院は、政令指定都市、堺において、創立以来救急医療を基軸に発展し、公益性の高い社会医療法人として現在では年間約5,000件救急搬送を受け入れる急性期医療を担う中堅病院です。創立45周年を機に市立堺病院跡に移転し、内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科などをはじめとする既存の診療科に加え、口腔外科、耳鼻科などの診療科を拡大し充実させるとともに、内科はさらに疾患別診療科体制をとって細分化し、総合病院として患者さんにわかりやすい診療体制を提供しています。さらに、各診療科は、それぞれの学会の認定研修施設として専門医療を展開し、地域の基幹病院として病診連携を強化することにより紹介患者数も多く、年間入院患者数は4,700名余に及んでいます。また、移転を契機に、プライマリから二次救急の診療が円滑に行えるように、救急医療センターとして、ハード面、診療体制ともに強化・リニューアルいたしました。同時に、急性冠症候群、脳卒中、重症呼吸不全などの重傷疾患や、年間1,700件を超える手術例などに対して安全に対応できるようにHCUやSCUを整備しています。

一方、専門医療別の検査や治療について、医師をはじめとした多職種で円滑にチーム医療が行えるように、内視鏡、化学療法、血液浄化などのセンターに加え、糖尿病生活習慣病センターや脳卒中、脊椎脊髄センターなど特色のある診療が行えるようにしています。

また、これらの診療を支えるインフラとして早期より医療情報システムのIT化を進め、徹底した診療情報の共有化をはかり、高度で多様化した医療ニーズに応えるチーム医療と医療の質の向上を目指しています。

## ■ 主な設備

- 上下部内視鏡
- マルチスライスCT
- X線テレビ
- トレッドミル
- マイクロサージャリー
- カプセル内視鏡
- MRI
- デジタルラジオグラフィ
- IABP
- 血管造影撮影
- エコー
- ホルター心電計
- 透析

## ■ 診療実績

(2024年度実績)

1日平均外来患者数	： 280.7人	1日平均新入院患者数	： 15.7人
1日平均救急外来患者数	： 21.4人	1日平均在院患者数	： 252.3人
1日平均救急搬送患者数	： 15.8人	平均在院日数	： 16.1日
年間心肺停止状態搬送患者数	： 65例		

### 主な入院患者数(主病名トップ20)

(2024年度 DPC症例より)

肺炎など	416例	前腕の骨折	92例
脳梗塞	339例	心不全	86例
股関節・大腿近位の骨折	269例	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む)	86例
誤嚥性肺炎	168例	脊柱管狭窄(脊椎症を含む)	83例
腎臓または尿路の感染症	140例	ウイルス性腸炎	83例
胸椎、腰椎以下骨折損傷	120例	てんかん	76例
その他の感染症(真菌を除く)	102例	頭蓋・頭蓋内損傷	74例
白内障、水晶体の疾患	101例	虫垂炎	70例
急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症	99例	体液量減少症	61例
非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)	96例	前庭機能障害	61例

## ■ 検査実績

(2024年度実績)

上部内視鏡検査	3,511例	脳波検査	380例
下部内視鏡検査	619例	心臓カテーテル検査・血管造影検査	51例
ERCP	58例	ABI	254例
超音波検査	7,785例		

## ■ 学会認定・修練施設

### 基幹型臨床研修病院

日本医療機能評価機構認定病院(一般病院2：機能種別版評価項目3rdG:Ver.2.0)

日本内科学会認定医制度教育関連病院	日本眼科学会専門医制度研修施設
日本糖尿病学会認定教育施設	日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本循環器学会循環器専門医研修施設	日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設	日本栄養療法推進協議会NST稼働施設
日本消化器内視鏡学会指導施設	日本病態栄養学会認定栄養管理・NST実施施設
日本肥満学会認定肥満症専門病院	下肢静脈瘤血管内焼灼術実施・管理委員会
日本病態栄養学会認定病態栄養専門医研修認定施設	下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設
日本小児科学会小児科専門医研修施設	日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設	日本呼吸器学会認定施設
日本脳神経外科学会専門医研修プログラム連携施設	日本神経学会認定准教育施設
日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院	画像診断管理認証施設
日本脳神経血管内治療学会研修施設	日本口腔外科学会認定准研修施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設	日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度関連認定施設
日本手外科学会専門医制度研修施設	ハンドセラピィ学会認定臨床研修施設



# 2 卒後臨床研修プログラム

## ■ 関連大学・医局

(2025年4月1日現在)

診療科	常勤医師数	関連教室
内科	9	大阪医科薬科大学
循環器科	3	近畿大学
小児科	3	大阪医科薬科大学
外科	5	大阪大学・奈良県立医科大学
脳神経外科	3	奈良県立医科大学
整形外科	13	大阪公立大学
産婦人科	0	
形成外科	0	
歯科口腔外科	1	近畿大学
麻酔科	2	奈良県立医科大学
リハビリテーション科	0	
救急医療センター	2	大阪大学・大阪医科薬科大学

## ■ 研修医数と出身大学

(2025年4月1日現在)

初期：4名 大阪公立大学、近畿大学  
 専攻医：2名 大阪公立大学

## 1 研修理念

次世代の医療を担う医師の育成は、病院に課せられた使命の1つである。この使命の達成のために、当院では各診療科において指導医を配置し、研修医の入院・一般外来患者に対する行動目標、経験目標を達成するとともに、24時間の一次ならびに二次救急現場での活動を通して、全人的医療の高揚、プライマリ・ケアの対応力の推進、医師としての人格の涵養を目的とした効果の高い研修の機会を提供する。

## 2 研修スケジュール

※1月を4週と換算



【注1】2年間で4週以上の一般外来研修(総合診療、一般内科、一般外科、小児科)を行う。

【注2】選択科Aは整形外科・脳神経外科より選択、選択科Bは将来専攻希望科とする。

【注3】スケジュールは一例であり、各々の研修に応じてスケジュールを調整・変更する。

## 3 研修必修科の概要

### 内科

#### 基本理念と特徴

内科系臨床研修の目的は、患者の心身ともに全身を把握するプライマリ・ケアが行えるようになるための医学知識、コミュニケーションスキルを含めた診療技術そして接遇態度を修得するとともに、各臓器別専門分野における専門知識、診断技術、最新治療を修得することである。内科系部門は、①一般総合内科(内分泌・代謝・呼吸器・神経・腎臓・血液・消化器内科)②循環器内科に大別され、豊富な臨床検査や多岐にわたる症例数が特徴である。

#### プログラム責任者

- ① 一般総合内科 野村 美枝/副院長補佐・糖尿病代謝内科部長、藤田 一彦/内科統括部長・呼吸器内科部長
- ② 循環器内科 古川 明日香/循環器内科部長

#### 指導医

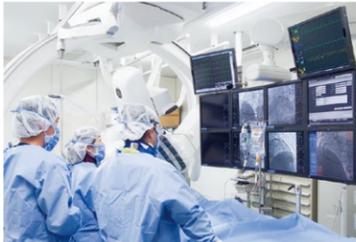
- ① 一般総合内科
  - ・野村 美枝/副院長補佐・糖尿病代謝内科部長(日本内科学会総合内科専門医、日本糖尿病学会専門医・研修指導医、日本病態栄養学会病態専門医・指導医、日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医)
  - ・藤田 一彦/内科統括部長・呼吸器内科部長(日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本呼吸器学会専門医・指導医、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医)
  - ・伊藤 巧/救急医療センター(日本救急医学会救急科専門医、ICLS認定インストラクター)
  - ・松山 宗樹/消化器内科部長(ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター、JSPEN日本栄養治療学会、臨床内科認定医、日本消化管学会胃腸科認定医)
  - ・土居 芳充/脳神経内科部長(日本内科学会総合内科専門医)
- ② 循環器内科
  - ・古川 明日香/循環器内科部長(日本内科学会総合内科専門医、日本内科学会認定内科医、日本循環器学会認定循環器専門医、日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション指導士、日本禁煙学会認定指導医)

## 研修期間

1年目の24週

## 研修目標と内容

研修は、一般総合内科、消化器内科、循環器内科を2か月ずつローテーションしながら、全期間を通じて内科系救急部門の診療に携わる。内科一般病床ならびにHCUでは、各期間スタッフ・ドクターの受け持ち患者の副主治医として患者の診療を行い、内科診療の基礎を修得する。外来では一般内科外来・専門外来・救急外来においてそれぞれスタッフ・ドクターの指導下に診療を行う。各分野での具体的な修内容を次に示す。

① 一般総合内科	内分泌・代謝	糖尿病教育入院、各種感染症、重症合併症を併発した糖尿病患者の管理、甲状腺疾患を始めとする内分泌疾患の診断精査(甲状腺エコー、頸動脈エコー)と一般治療ならびに患者教育などに関する包括的な心理行動学的治療法を行う。
	呼吸器内科	各種肺炎などの一般診療をはじめ、各種放射線検査の読影ならびに気管支鏡検査などを行うとともに、HCUにおいて重症呼吸管理などの治療を行う。
	脳神経内科	脳血管障害、神経・筋疾患などの検査・診断(腰椎穿刺、筋電図検査などの実施ならびに関係画像検査の読影)と一般治療ならびに血漿交換などの特殊治療を行う。
	消化器内科	消化管出血、重症膵炎、重症胆道系感染症などの消化器系ならびに肝胆道系の各種疾患の診断と治療を行う。特殊検査治療としては、上部・下部X線検査、上部・下部内視鏡検査、カプセル内視鏡、ERCP(内視鏡的逆行性膵胆管造影法)、内視鏡的ポリプ切除術、EST(内視鏡的乳頭切開術)、PEG(経皮的胃瘻造設術)、食道静脈瘤結紮療法、腹部エコー、肝生検、インターフェロン療法、腹部血管造影、TAE(経皮的肝動脈塞栓術)、PEIT(経皮的エタノール注入療法)などを行う。
	その他	血液内科疾患や救急部と直結した各種感染症、薬物中毒、熱中症、重症呼吸管理などの内科系一般救急患者の治療を行う。
② 循環器内科	救急部と直結して急性冠動脈疾患の診断と治療、ペースメーカ治療ならびに重症心不全治療などを行う。 特殊検査治療としては、心エコー、心血管造影、PTCA(経皮的冠動脈形成術)、ステント(経皮的冠動脈ステント術)、ペースメーカ植え込み術などを行う。	
③ カンファレンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>●病院医局会(隔週木曜日)</li> <li>●カンファレンス・チャートラウンド(毎週月曜12時30分～13時30分・毎週木曜16時～18時) 新入症例検討、転科症例検討、内科症例検討、レビュー、NEJM抄録会</li> <li>●各症例に関する検討は、スタッフ・ドクターと十分なディスカッションを行ったうえで、総回診でプレゼンテーションとディスカッションが行えるようにする。また、患者を総合的にマネージかつケアできるように各スタッフ間と充分コミュニケーションがとれるようにする。</li> <li>●毎週実施される内科カンファレンスにおいて、自分の症例をプレゼンテーションするのみでなく、病因・病態・最新治療を含めたレビューを行えるようにする。</li> <li>●剖検症例や死亡症例に関してはCPC、death conferenceとして発表する。</li> </ul> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●研修医イブニングセミナー(毎週火曜16時15分～17時)</li> <li>●循環器内科カンファレンス(毎週水曜16時～17時)</li> <li>●脳卒中カンファレンス(毎週火曜16時～18時)</li> <li>●糖尿病カンファレンス(毎週水曜12時30分～14時)</li> </ul>	

## 外科

### 基本理念と特徴

外科研修では、外科疾患を有する患者を診るために必要な知識や技術を修得するとともに、インフォームド・コンセントが十分行える能力を研鑽する。また、救急病院である特性を活かし、救急外科に関しても積極的に研修する。



### プログラム責任者

近藤 禎晃／副院長・外科部長

### 指導医

- ・近藤 禎晃／副院長・外科部長(日本外科学会専門医、日本胸部外科学会認定医、日本循環器学会専門医、日本癌治療認定医機構がん治療認定医、日本救急医学会救急科専門医)
- ・五福 淳二／外科副部長(日本外科学会専門医)
- ・廣岡 智／外科医長(日本外科学会専門医、日本消化器外科専門医、消化器がん外科治療認定医、日本癌治療認定医機構がん治療認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医(消化器・一般外科))
- ・大久保 遊平／外科医長(日本外科学会専門医、検診マンモグラフィ読影認定医)

### 研修期間

1年目の8週

### 研修目標と内容

研修目標は、消化器外科、血管外科、内分泌外科の診断と治療が行えるようになることである。研修内容としては、指導医とともに、外来診療、入院患者の回診、臨床検査、手術にあたる。具体的な診療では、診察と各種検査結果から術前診断を行い、回診や術前症例検討会で治療方針を決定する。手術はもとより、術前、術後管理にも積極的にかかわることにより、研修目標の達成を目指す。

① 消化器外科部門	消化器外科に関わる知識、技術の修得、術前、術後の全身管理を修得する。消化管穿孔などの「急性腹症」の診断、治療の実際を学ぶ。食道癌、胃癌、大腸癌などの代表的な消化器癌の診断、治療を研修、修得する。胆石症、大腸疾患などに対する鏡視下手術の治療手技を研修、修得する。
② 血管外科部門	動脈系、静脈系、リンパ系疾患の診断と治療を学ぶ。診察、簡易検査、臨床機能検査を通じた診断とそれを基にした治療方針の決定、保存療法、血管内治療、手術療法などの治療の実際を学ぶ。
③ 内分泌外科部門	乳腺および甲状腺の外科的疾患を中心に診察、超音波検査や放射線検査などの画像診断、各種生検による臨床病理検査を通じて診断し、治療方針の決定を行う。手術療法、化学療法、放射線療法からなる集学的治療を研修、習得する。

## 救急部

### 基本理念と特徴

一次救急患者に対するプライマリ・ケアを修得するとともに、心肺機能停止例の如く、二次以上の救急処置を要する際の救急処置を把握する。

### プログラム責任者

近藤 禎晃／副院長・外科部長

### 指導医

- ・ 梁 宗哲／麻酔科部長・手術部長(日本麻酔科学会麻酔専門医、日本ペインクリニック学会ペインクリニック専門医)
- ・ 奥村 嘉也／副院長・脳神経外科医(日本脳神経外科学会専門医・指導医、日本脳卒中学会専門医・指導医、日本脳卒中の外科学会技術指導医)
- ・ 木村 僚太／脳神経外科部長(日本脳神経外科学会脳神経外科専門医・指導医、日本脳卒中学会脳卒中専門医・指導医、日本脳卒中の外科学会技術指導医、日本脳神経血管内治療学会脳血管内治療専門医・指導医)
- ・ 坂中 秀樹／院長・整形外科部長・臨床研修管理委員会委員長(日本整形外科学会専門医・日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医・日本脊椎脊髄病学会指導医)
- ・ 北 輝夫／脊椎脊髄外科部長(日本整形外科学会専門医・日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医・日本整形外科学会認定スポーツ医・日本整形外科学会認定リハビリテーション医)

他、内科・外科・小児科各科表記指導医併任

### 研修期間

- ・ 1年目の8週
- ・ 2年目の4週

### 研修目標と内容

一次救急患者に対する治療を修得するとともに、心肺停止、ショック、意識障害、脳血管障害、急性心不全、急性呼吸不全、急性腎不全、急性消化管出血・骨折を含む外傷など緊急を要する高度の救急疾患の初期治療に参加し、救急現場に必要なプライマリ・ケアの技術の修得を目標とする。

①	重症度や緊急度および病態を診断し、検査・治療方針を立案できるよう研修する。
②	気道確保、人工呼吸、心マッサージ、およびこれらを総合した二次救命処置(ICLS)、ショックの診断と治療などを修得する。また一次救命処置(BLS)が指導できるように研修する。
③	専門医へのコンサルテーションができるよう病態を適切に把握できるよう研修する。



## 麻酔科

### 基本理念と特徴

全身麻酔、くも膜下脊髄麻酔および周術期の安全管理について学ぶとともに、救急現場に必要なプライマリ・ケアの技術の修得を目標とする。

### プログラム責任者

梁 宗哲／麻酔科部長・手術部長(日本麻酔科学会麻酔専門医)

### 研修期間

- 1年目の8週

### 研修目標と内容

手術症例の麻酔を通して、専門医の指導管理のもとに術前評価ならびに術中管理を行い、呼吸循環管理に必要な各種モニターや医療機器の使用法、気道確保(マスク換気、気管内挿管)、人工呼吸、静脈路確保などの基本的な知識や技術の修得を目標とする。



## 小児科

### 基本理念と特徴

小児科医としてプライマリ・ケアが行えるようになるために必要な新生児～思春期に至るまでの診療知識・コミュニケーション力・技能を修得する。休日・夜間も小児の一次・二次救急患者を受け入れる診療体制のもと、多くの症例を実践のなかで経験できることが特徴である。

### プログラム責任者

松島 礼子／小児科部長

### 指導医

- ・ 松島 礼子／小児科部長(日本小児科学会小児科専門医・指導医、日本小児心身医学会認定医・指導医)
- ・ 堀内 剛／小児科医長(日本小児科学会小児科専門医、日本小児感染症学会小児感染症認定医)
- ・ 國貞 佳世／(日本小児科学会小児科専門医)

### 研修期間

- 2年目の4週

### 研修目標と内容

① 一般目標	小児科および小児科医の役割を理解し、小児医療を適切に行うために必要な基礎知識、技能、態度を習得する。年齢に応じた疾患の鑑別、治療といった小児科特有の診療を学ぶ。また、患児の診察所見だけでなく、保護者からの情報も極めて重要であり、患児・保護者との信頼関係を築くコミュニケーション力を身につける。
② 研修目標	<b>1) 患児・保護者との医療面接</b> 乳幼児に不安を与えずに接することができ、理学的診察ができる。保護者から必要な情報を的確に聴取できる。小児の身体発育、精神発達が年齢相応であるか判断できる。 <b>2) 基本的臨床検査</b> 必要な検査を実施し、小児の各年齢に応じた検査結果を解釈できる。(血液検査・尿検査・髄液検査・微生物学的検査・心電図検査・単純X線検査・CT検査・MRI検査・超音波検査) <b>3) 基本的手技</b> 小児の採血、注射、静脈ルート確保の手技を理解し、実施できる。



## 産婦人科

### 基本理念と特徴

妊娠や分娩の他、女性生殖器の悪性腫瘍や子宮筋腫、子宮内膜症などの女性特有の疾患、不妊症など、産婦人科が扱う領域は多岐に渡る。女性診療のプライマリ・ケアを行うにあたって最低限身につけておくべき知識や診察手技などの習得を目標に、大阪暁明館病院で実践している産婦人科の地域医療(分娩や婦人科良性疾患の手術など)を中心に研修する。

### プログラム責任者

吉田 昭三／大阪暁明館病院院長

## 指導医

大阪暁明館病院産婦人科

・吉田 昭三／院長(医学博士、日本産科婦人科学会専門医・指導医、母体保護法指定医、日本婦人科腫瘍学会専門医、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医、日本女性医学学会専門医・指導医、日本性感感染症学会認定医)

・梶原 宏貴／産婦人科部長(日本専門医機構認定産科婦人科専門医、日本産科婦人科学会指導医、母体保護法指定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本医師会認定健康スポーツ医)

## 研修期間

2年目の4週

## 研修目標と内容

① 産科部門	妊娠の診断やその手順、妊娠初期に見られる異常妊娠など特に注意すべき事項を理解する。妊娠中期において胎児超音波診断を実践し手技を習得する。分娩に立ち会う事でその経過を理解し、新生児のプライマリ・ケアを実践する。帝王切開術の助手として手術に参画する。
② 婦人科部門	あらゆる年齢層の女性の下腹部痛の鑑別疾患で、婦人科疾患を想定する必要がある。当院での外来診療の中で種々の疾患の診断方法を理解し、アプローチできるようにする。婦人科領域におけるcommon diseaseを理解し、対処方法などを習得する。手術療法に関しては腹腔鏡下手術を中心に行っており、助手として手術に参加する。

## 精神科

### 基本理念と特徴

臨床医として患者の持つ問題を精神面や社会的側面からも理解し、患者や家族、さらに医療スタッフと良好な人間関係を築き、精神障害の診断、治療、社会復帰などに必要な基礎的知識と技術を習得する。

研修は、医療法人杏和会阪南病院にて行い、精神科救急、児童思春期、合併症、ストレスケア、認知症といったさまざまな精神科症例に対する技術の習得を目指す。希望により、終夜睡眠検査、光トポグラフィー検査実習および精神科救急実習を行う。

### プログラム責任者

・黒田 健治／医療法人杏和会阪南病院 院長(医学博士、精神保健指定医、日本総合病院精神医学専門医・指導医、日本睡眠学会認定医)

・横田 伸吾／医療法人杏和会阪南病院 副院長  
(医学博士、精神保健指定医・日本精神神経学会指導医・専門医、日本児童青年精神医学会認定医)

・土井 拓／医療法人杏和会阪南病院 副院長(医学博士、精神保健指定医・日本精神神経学会指導医・専門医)

## 研修期間

2年目の4週

## 研修目標と内容

① 主要な精神疾患の診断と治療	統合失調症・気分障害・認知症について、指導医と共に入院患者を受持ち、診断、検査、治療方針についてケースレポートを提出する。
② 精神科救急	意識障害、精神運動興奮、自殺企図に対する精神科救急治療に参加し経験する。
③ リハビリテーションおよび地域支援体制	デイケア、作業療法、地域生活支援、就労支援について理解する。
④ チーム医療	医師、看護師、公認心理師、作業療法士、精神保健福祉士など、医療・保健・福祉の幅広い専門職チームで患者中心の医療を経験する。
⑤ リエゾン精神医学	ストレス関連疾患や器質性・症状性精神疾患を学び、リエゾン・コンサルテーションに役立てる。

## 地域医療

### 基本理念と特徴

伊江村立診療所において研修を行い、プライマリ・ケア医療として必要な基礎知識や診療態度を修得することを目標とする。

伊江村立診療所：沖縄県国頭郡伊江村字東江前459番地(沖縄県の本島北部の本部半島から北西約9kmの洋上に浮かぶ離島伊江島にある)

### プログラム責任者

伊江村立診療所 阿部 好弘／診療所長

### 研修期間

2年目の4週

### 研修目標と内容

家庭復帰、社会復帰を目指して運動療法・物理療法・言語療法に取り組んでいる患者への対応を学ぶ。

通院が難しい患者のために、医師の往診、訪問看護、訪問リハビリ、薬剤師の服薬指導などに同行し、ターミナルケアや重度障害の患者への対応を学ぶ。

### 離島診療

外来診療・当直・透析療法・現場出動・救急搬送・訪問診療・地域との交流を経験し、専門にとらわれない総合的に判断する力を学ぶとともに、知識や技術だけでは満足を得ることは難しい患者への診療態度を学ぶ。

## 4 研修選択科の概要

### 基本理念と特徴

選択科A：必修以外の診療科で、プライマリ・ケア医として学びたい診療科、ないし将来の専攻科目を目指すに際して学びたい診療科について、必要な基礎知識や診療態度を修得することを目標とする。

選択科B：将来専攻希望科に必要な基礎知識や診療態度を修得することを目標とする。

### プログラム責任者

森信 若菜／理事長・統括責任者 および 当該科責任医師

### 研修期間

・選択科A：2年目の8週 ・選択科B：2年目の20週

## 整形外科

### プログラム責任者

坂中 秀樹／院長・整形外科医・臨床研修管理委員会・専攻医管理委員会委員長

### 指導医

・坂中 秀樹／院長・整形外科医・臨床研修管理委員会・専攻医管理委員会委員長  
(日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、日本脊椎脊髄病学会指導医)

・北 輝夫／整形外科部長(日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、日本脊椎脊髄病学会指導医、日本整形外科学会認定スポーツ医、日本整形外科学会認定リハビリテーション医)

## 脳神経外科

### プログラム責任者

奥村 嘉也／副院長・脳神経外科医

### 指導医

・奥村 嘉也／副院長・脳神経外科医(日本脳神経外科学会専門医・指導医、日本脳卒中学会専門医・指導医、日本脳卒中の外科学会技術指導医)

・木村 僚太／脳神経外科部長(日本脳神経外科学会脳神経外科専門医・指導医、日本脳卒中学会脳卒中専門医・指導医、日本脳卒中の外科学会技術指導医、日本脳神経血管内治療学会脳血管内治療専門医・指導医)

・細川 真／脳神経外科医員(日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医、日本脳神経血管内治療学会専門医)

## 5 評価方法について

PG-EPOC評価票使用。

各科ごとに初期研修医として満たすべき目標を設定し、PG-EPOCにより、研修医の自己評価と指導医の評価を相互に行い、臨床研修管理委員会・専攻医管理委員会で検討する。

## 6 募集要項

研修日	研修開始：4月1日 研修日：週5日 研修時間：9時～17時 但し、休日・時間外診療研修も実施
処遇	身分：常勤医 研修手当：1年次／月額380,000円(週1回当直を含む)、賞与600,000円 2年次／月額430,000円(週1回当直を含む)、賞与700,000円 各種保険：健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険、個人賠償責任保険 有給休暇：6ヶ月以降 10日/年 住宅手当：勤務施設から半径2km以内の賃貸住宅に移転した場合に支給(月6万円上限)
募集人員	2名
応募資格	2027年医師国家試験受験予定者、事前の病院見学・病院実習を必須とする、マッチングプログラム参加
締切日	2026年8月中旬予定
選考日	2026年8月下旬
選考方法	面接・口頭試問
病院見学	必要(随時：庶務課へ連絡)
応募書類	当法人ホームページよりダウンロード可 研修医募集について  <ul style="list-style-type: none"><li>履歴書(当法人ホームページよりダウンロード可)</li><li>成績証明書</li><li>卒業見込み証明書</li><li>健康診断書</li></ul>
応募連絡先	庶務課 TEL：072-223-8199(代表) FAX：072-221-3691 E-mail：syomuka@seikeikai.or.jp

# 3 メッセージ

## 理事長からのメッセージ

### 幅広い多くの経験を積む大切さ

社会医療法人清恵会 理事長 森信 若葉  
卒業大学／大阪医科薬科大学(H1卒) 専門／小児アレルギー



私が医学部を卒業した頃は母校の大学病院に入局することがスタンダードで、私も他の選択肢を考慮することなく小児科医局に入局しました。1年目に大学病院で小児科の各専門グループをローテイトし、血液疾患や新生児疾患など、大学病院ならではの症例を経験しました。2年目は関連病院へ出向し、小児の一般外来や救急などを経験しました。その後は大学院で研究、再び関連病院へ出向するなどを経て現在に至ります。

現在の臨床研修医制度では2年間に内科・救急・外科・小児科・産婦人科・精神科・地域医療などの研修が必須となり、将来選択する専門科の土台となる幅広い領域の知識の習得と経験ができるという点でも昔とはずいぶん変わりました。長年、救急病院に勤務していると、その必要性が実感されます。

清恵会病院は、1970年に当時不足していた堺市における救急医療の充実を目指して創設され、以来、地域の救急医療を担い続けています。同時に各専門医療チームの構築、病院機能評価機構の認定、各種学会認定など、教育機関に必要な医療環境を整えてまいりました。当院は、関連大学病院から派遣されている各診療科の指導医が、研修医と共に診療を行いながら知識・技術を伝えて行く、とても実践的な研修施設です。救急の医療現場や入院診療などでの幅広い多くの経験が将来のキャリアへ繋がるものと考えます。実りある研修医生活を送っていただきたいと思います。願っております。

## 院長からのメッセージ

### 症例が育む、あなたの未来

社会医療法人清恵会 清恵会病院 院長 坂中 秀樹  
卒業大学／大阪市立大学(S60卒) 専門／整形外科(脊椎脊髄外科・外傷整形外科)



当院は、急性期中間病院として、地域の中核を担うべく、日々医療に取り組んでいます。特に救急医療は当院の柱であり、24時間365日、多岐にわたる症例を受け入れています。この環境こそが、皆さんの初期研修において最も大きな財産となります。大学病院では、とかく専門性が深くなりがちですが、当院の研修では、それに加えて症例豊富な救急疾患に数多く直面します。これは、稀な疾患から生命を脅かす重症例まで、真のプライマリ・ケア能力を養うための最高の教材です。また、一般病院ならではのCommon Disease(頻度の高い疾患)にも豊富に触れることができ、「とりあえず何でも診られる医師」となるための確かな土台を築くことができます。当院のもう一つの大きな強みは、指導体制です。各診療科には、専門性の高い指導医が揃っており、皆さんの成長を全力でサポートします。そして、研修医は少数精鋭をモットーとしています。これにより、皆さんは一人あたりの経験症例数が圧倒的に多くなります。単に「見学する」のではなく、「自ら手を動かし、考え、実践する」機会が豊富にあるということです。私が病院長として、そして臨床研修管理委員長として最も重視しているのは、「患者さんの人生を支える医師を育てる」ということです。技術や知識はもちろん大切ですが、それ以上に、患者さんの心に寄り添い、全人的な医療を提供できる人間性を磨いてほしいと願っています。この2年間は、皆さんの医師人生を左右する、非常に濃密な時間となるでしょう。時には壁にぶつかり、困難を感じるかもしれません。しかし、その一つひとつの経験が、必ず皆さんの血となり肉となります。私たちは、皆さんが持つ無限の可能性を信じ、共に成長できることを楽しみにしています。皆さんが当院で、熱意ある指導医と共に、情熱的で充実した研修を送られることを心から願っております。

## 指導医からのメッセージ

### 清恵会病院で研修をされる先生方へ

内科統括部長・呼吸器内科 部長 藤田 一彦  
卒業大学／大阪医科薬科大学 (H4卒)

当院の研修プログラムの特徴は、内科、外科、整形外科、脳神経外科、小児科、形成外科と幅広くさまざまな領域で研修医として研修できることです。また、当院には、救急医療センターがあり、内科、外科、整形外科、脳神経外科、小児科領域の救急患者も日々搬送され、救急の研修もできます。その他、地域医療では、沖縄研修があり、産婦人科、精神科は、府内の病院での研修ができます。研修医の期間に数多くの症例を経験することは、希望される診療科へ進んだ後も役立てると信じています。

2年間、丁寧に教えてくれる各科の先生方の指導の下しっかり勉強できると思いますので頑張ってください。研修期間中わからないことも多いと思いますが、遠慮なく指導される先生方に質問してください。当院は、丁寧にかつ的確に指導していただける先生がたくさんおられる施設であります。それでは、2年間の研修頑張ってください。

## 指導医からのメッセージ

### 頻度の高い疾患から難度の高い疾患まで症例を豊富に経験できます

脊椎脊髄外科 部長 北 輝夫  
卒業大学／大阪市立大学 (H4卒) 専門／整形外科 (脊椎脊髄外科)

研修医の皆さん、清恵会病院脊椎脊髄センターの北輝夫と申します、当院整形外科では骨軟部悪性腫瘍を除く各専門分野(脊椎、スポーツ、関節、手・マイクロ、外傷)に精通したスタッフと後期研修医がチームとなり診療を行っています。そのため各分野で頻度の高い疾患から難度の高い疾患まで、症例を豊富に身近に経験することができます。さらに寛大な部長以下、スタッフは研修医に対する愛情とその教育や指導に情熱を持っており、臨床から学会活動まで有意義な研修生活を送ることが可能です。研修された先生方のその後の活躍からも、当科での初期研修は一定の成果があるものと確信しています。ぜひとも当院を研修の候補にご検討ください。

## 研修医からのメッセージ

### 清恵会病院で研修を迎える皆さんへ

研修医2年 加藤 拓  
卒業大学／近畿大学 (R7卒)

これから始まる日々は、医師としての第一歩であり、学びと成長の連続です。現場では、知識だけでなく患者さん一人ひとりに向き合う姿勢や、チーム医療の大切さを実感します。

清恵会病院は、地域医療の最前線で多様な症例を経験できる恵まれた環境です。失敗を恐れず、疑問を持ち、積極的に行動してください。周囲のスタッフや上級医に遠慮せず質問し、助けを求めれば温かく教えていただけます。また、同期は自分含めて2人と少ないですが、少ない故に共に支え合えるというのも大きな魅力です。悩みや不安、喜びを話し合える仲間が必ず支えになると僕自身強く実感しています。この病院での研修が、医師としての確かな土台を築く時間となることを願っています。

### 次期研修医の皆さん、ようこそ清恵会病院へ!

研修医2年 石田 大虎  
卒業大学／近畿大学 (R7卒)

当院は、温かい指導医の先生方や熱心なコメディカルスタッフに恵まれ、安心して研修に打ち込める環境です。

1年目は、内科、外科、救急など、幅広い診療科をローテーションし、基本的な診療スキルを習得します。2年目からは、より専門的な知識・技術を深め、自分の興味のある分野を探求できます。

清恵会病院の研修の特徴は、患者さんとの距離が近いこと。一人ひとりの患者さんに寄り添い、全人的な医療を実践できます。また、研修医同士の仲が良く、互いに切磋琢磨しながら成長できるのも魅力です。

研修は大変なこともあります。充実した日々を送れるはず。清恵会病院で、共に成長しましょう!皆さんと会えるのを楽しみにしています。